

水の謎

「キュツキュツ。ジャー。ゴクリツ。はあー。」お風呂上りのいつもの一杯はとても満たされた気持ちになる。私が今住んでいる地域は、お風呂上がりにコップ一杯の水道水をわざわざ飲むもうと思えるくらい、水が美味しい。

ところがつい先日、いつものようにお風呂上がりに美味しい水を飲んでみると、母が、「あんた、ほんまに美味しそうに水飲むな。でもな、ここよりもっと美味しい水のところもあるねんで。」
そういう残し去っていった。そんなことを言われ、気にならないはずがない。この日のこの瞬間から水に対する謎が私の脳みその半分以上を埋め尽くした。

たぐさんの謎を大きく二つにまとめてみた。まず一つ目は、「田舎の水は美味しく都会の

下市町立下市中学校 三年

井阪 未来

水は不味い」とよく言うが、本当にそれぞれの地域で水の味は違うのだろうかということだ。母が前に言っていた「ここよりもっと美味しい水のところ」というのは、私の祖父、つまり母の父の実家があった、川上村の白屋のことだった。そこは下市よりもさらに田舎で、水は一年中冷たくて甘く、とても軽かつたそうだが、その地区にダムを建設したために、ダムの水圧で村があった山全体の地盤が緩み、村民が移住を余儀なくされた。その村にいた親戚の伯父は今も檜原市に住んでいて、町の水は塩素消毒の臭いが強く水温も高いので、とても美味しいとは言えないという。

このように地域ごとに水の味や美味しさが違うことは確かなことだった。なぜなのか調べてみると、水道水に含まれる成分や水温が

異なるからだということがわかった。浄水処理も、場所により消毒に使われる塩素の量なども変わってくるらしく、汚染が多い場所は塩素の量も多くなるそうだ。だから都会の水は不味いところが多いのだと納得がいった。二つ目の謎は、まず根本的に美味しい水とはどんな水なのかということだ。これも調べたところ、水道水の味は硬度、ミネラル分、残留塩素の濃度、水温といったもので決まるとのことだった。硬度というのは、水千ミリリットル中に溶けているカルシウムとマグネシウムの数値のこと、硬度が高く味にクセがあるのが硬水で、硬度が低く飲みやすいのが軟水で、一般的には軟水が好まれているらしい。ミネラル分は適量がよく、一つ目の謎でも言ったように、残留塩素の濃度が多ければ不味く、少なければ美味しいということだ。だが法律的に、必ず塩素を入れなければならぬそうだ。また、水温が低いと生理的に美味しいと感じるらしい。以上をまとめると美味しい水というのは、硬度が低く軟水、残留塩素濃度が低い、ミネラル分が適量、水温が低い、ということになった。

以前から疑問だった謎の答えを得ることができ、もつと美味しく水を飲めるようになったと思う。私は水が美味しい地域に生まれたことをとても幸せに思う。でも、できれば私も川上村の白屋の水をコップに一杯だけ飲みたいから飲んでみたかった。こんな思いを次の世代の人たちが思わなくてすむように、この美味しい水を残していきたい。